

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター カトリック仙台司教区・カリタスベース

(宮古・大槌・釜石・障がい者センターかまいし・大船渡・米川・石巻・福島デスク・原町・もみの木・CTVC)

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

前号でお約束いたしましたように、東日本大震災から4年目を迎えた各カリタスベースでの3.11の様子をご紹介します。今回は、仙台教区が行った亘理教会での追悼・復興祈願ミサと、「祈りの行進」に参加した原町ベース、「追悼の竹とうろう」を灯しての祈り。さらに、3月末に大阪 ENGO の招待を受け、研修した米川ベース長の千葉道生さんのレポートをご紹介します。

3. 1 1 被災地の亘理教会で 平賀司教による 震災犠牲者追悼と復興祈願ミサ

仙台教区サポートセンター 小野 武

東日本大震災から丸4年を迎えた3月11日、仙台教区平賀徹夫司教の主司式で、宮城県南地区担当のホセ神父、グアダル・ペ会管区長・ダビデ神父、水沢教会担当の高橋昌神父による「東日本大震災犠牲者追悼と復興祈願ミサ」が亘理教会でささげられました。

毎年、平賀司教は3.11には被災地の教会で、「震災犠牲者の追悼と復興祈願ミサ」をささげることにしておられ、これまで大船渡教会、宮古教会でミサをささげられましたが、今年は、亘理教会で行われました。

宮城県の亘理町は隣接している山元町とともに、県道38号線沿いが「ストロベリー・ロード」とも呼ばれていた「いちご」の産地として有名な町でしたが、地震と津波で壊滅的な被害を被った地域です。

このミサには、亘理教会の信徒、保育園の職員、そして近隣の大河原教会、白石教会、ラ・サール修道会のロドリゴ修道士、そして亘理地区で支援活動をしている八木山教会のオリーブの会、カトリック東京ボランティアセンター(CTVC)、さらには、原町ベースのスタッフと、この地域で活動しているシスター方を含め、約70名の方が参加され、亘理教会のこじんまりした聖堂は、祈る人であふれていました。



ミサの説教で平賀司教は、概略、次のように話されました。

「4年前の14時46分に大きな地震、巨大津波が沿岸を襲いました。そして、福島第一原発の事故が起きました。この大変な災害により、約2万人が亡くなられ、今なお、約23万人の方が仮設住宅での生活を余儀なくされています」と被害の大きさに触れ、「亡くなられた人の冥福」と「苦しんでいる人の復興」を心から祈願されました。

次いで、「一人ひとりの生命はとても大切なものです。しかし、地上でのいのちと天国でのいのちは別々のものではありません。今、私たちが送っているこの地上での生活は、いわば天国への助走のようなものです。神様は、喜ぶ人と喜び、悲しむ人と悲しみ、だれ一人見捨てられることはありません。ですから、以前にもまして、亡くなられた方々のために祈り、苦しんでいる人に手を差しのべましょう」と話されました。

共同祈願では、「亡くなられた方」「行方不明の方」「福島原発被害にあわれた方」「被災で不安な生活をおくられている方」「復興支援に携

わっている方」を記憶し、その方々のために特に恵みを求め、祈りました。

ミサの後、亘理地区の慰霊塔がある荒浜で14:46に「東日本大震災被災者のための祈りⅡ」を皆で心を合わせて祈り、黙とうをささげました。私たちの祈っているこの場に、八木山教会オリーブの会が活動している亘理の旧館仮設住宅におられた方も来られて一緒に祈りをささげました。被災者の方と共に追悼と復興祈願の祈りをささげることができたことは、意義深いことだと感じました。



また、亘理教会の信者の方で、娘さんを亡くされた方の住宅の跡地に立ち寄り、花を手向けお祈りをいたしました。とても風が強く寒い日で、4年前の悲惨な光景が思い出されました。

20150311 南相馬では
3月11日が近づく、被災者の方々には
いろいろな思いがわき上がる
CTVC カリタス原町ベース 畠中 千秋

「2015年3月5日～9月21日～原爆投下70年・祈りと共に核を巡る～祈りの行進」に参加しました。

3月9日、土砂降りの日、12号線～原ノ町駅～同慶寺。10日、快晴の青空の下、同慶寺～請戸海岸へ供養。

申請しないと立ち入りを許可されない浪江町の請戸港にも足を進め、祈りをささげました。祈りのカードを海に流し、追悼の祈りをささげました。仮設住宅から来られた方々など、様々な所から来られていましたが、助け合いながら歩くことができました。小高区（避難指示解除準備区域、日中の出入りだけが許可されている）にある、同慶寺で追悼の祈りを宗教・宗派を超えて、参加者全員でささげました。カトリックの「東日本大震災被災者のための祈りⅡ」から始まり、日本山妙法寺の方たちのお経、同慶寺の方たちの般若心経と続けました。



そして、3月11日、社会福祉協議会と原町ベースとの連携で、「借り上げサロン（借り上げ住宅にお住まいの方々の集い）」で、アートセラピーと音楽をお楽しみいただきました。アートセラピーでは、「楽しかった思い出」というテーマで自由に絵を描いていただき、テーブルごとに心温まる思い出話に花が咲き、最後は、歌を歌い、楽しいひと時が過ぎました。

その時に話してくださった被災者の言葉が、今も耳に響いています。「『3・11』という日は、心も重くなり一人ではいられない。どう過ごしてよいかわからないと思っていたけど、『借り上げサロン』があって、皆と楽しく過ごせて良かった。」

被災者の方々にとって、3.11は、悪夢のように、いろいろな辛かったこと、苦しかったこと、悲しかったことが、心にあふれ出て、どうしていいかわからない思いに苦しめられる日なのだ、ということを感じました。



3.11「追悼の竹とうろう」を灯して祈る

CTVC（カトリック東京ボランティアセンター） 大久保 洋

3月11日、宮城県亘理町と山元町で行われた追悼祈念行事に参加しました。

亘理教会では、平賀司教様の司式により「東日本大震災犠牲者追悼と復興祈願ミサ」が行われました。地元の信者のほか仙台・八木山教会オリーブの会とカリタス原町ベースのボランティア、CTVCのスタッフがミサにあずかりました。

ミサ後は亘理町荒浜地区に移動し、14時46分に慰霊碑の前で黙とう。その後、津波の犠牲になった信者宅の跡地にも行き、司教様が花を手向け皆でお祈りをささげました。

夕方からは、JR常磐線の旧山下駅前広場で「追悼の竹とうろう」に参加しました。このイベントは山元町の住民グループ「震災復興土曜日の会」と全国から集まったボランティアにより開催されているものです。CTVCは3年前から参加しています。手作りの竹とうろうとメッセージが書かれたとうろう500本に火がともされ、地元住民やボランティアなど約200人が犠牲者を悼み復興を祈念しました。

時折、小雪が舞い強風が吹く寒い天候のなか、地元の曹洞宗・普門寺の住職と全国から参集した青年僧侶による読経が行われました。続いて南相馬市のカリタス原町ベースからかけつけた7人のシスターたちにより「アベ・マリア」と「サルベ・レジーナ」が歌われました。竹とうろうによる追悼の祈りは、隣駅の旧坂元駅でもささげられ、犠牲者追悼と復興への願いが宗派を超えて天に届けられました。



亘理町・山元町では仮設住宅から出られる方が増えてきました。JR常磐線の新駅建設作業や店舗の営業再開など復興への歩みも進んでいますが、仮設住宅退去後の生活の見通しが立たない方も多い、と聞いています。被災地を忘れないように、これからも被災者に寄り添う活動が続けていきたいと思います。



シスターたちによる聖歌（旧山下駅）

ENGO de おいで（阪神淡路大震災研修）

カリタス米川ベース 千葉 道生

3月23日から25日の日程で、大阪教区（ENGO）の皆さんの招待で、大阪・神戸へ視察に行ってきました。「ENGO」とは、大阪教区の復興支援組織、E（遠方の）N（仲間に）G（元気を）O（大阪から）の頭文字です。

東日本大震災からおおよそ4年間、現場の中であがむしゃらに、目の前にあることをひたすらやってきました。今後、仮設住宅から復興住宅へ被災した人々は引っ越していき、町は新しく生まれ変わっていきます。その中で、私たちは今後どのような形で寄り添っていくことができるのか？ 阪神淡路大震災からおおよそ20年間、神戸の人々はどのように生きていったのか？ 行政ではない、私たちのような小さな組織は、どのように人と繋がっていくことができるのか？

これからの町づくりのため、学びに行ってきました。

参加ベースは、北から大槌ベース、大船渡ベース、米川ベース、原町ベース、いわきサポートステーションもみの木の5ベースでした。伊丹空港に到着すると、「歓迎 東日本大震災復興支援 “ENGO de おいで”」と書かれた紙を掲げて、満面の笑みで濱口さんと深堀さんがお出迎えしてくれました。

その後、大阪市内にある大阪教区事務所へ移動しました。まず、神田神父様からご挨拶をいただき、その後、事務局の中を案内していただきました。建物は綺麗になっても忘れてはいけないことを思い出させてくれる「阪神淡路大震災救援対策本部」の看板が、部屋の隅に置かれていました。また、修理中の大聖堂の中へも入ることが出来ました。復活祭の前には完成するとのことでした。



それから電車で揺られ大阪の町へ。田舎で生活をしている米川スタッフたちは、賑やかな大阪の町を見て、とても興奮していました。グリコの看板が、昼と夜とでは背景が変化しており、夜はなぜかモアイとグリコがコラボしていました。モアイをみて、南三陸との連帯を感じましたが、どうなのでしょう？

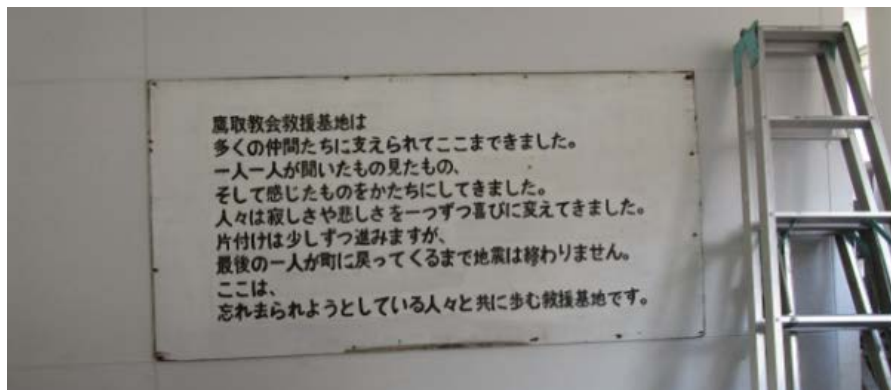
その後、サプライズ!?で、なんばグランド花月へ。
スタッフの皆さんは、こんなに笑ったのは久しぶりだと言っていました。普段まじめな話ばかりで仕事の鬼になっているベーススタッフたちにとって、笑いを大切にしている大阪ならではの最高のおもてなしでした。

2日目、神戸市の「人と防災未来センター」を訪れました。阪神淡路大震災から20年の記憶・記録と通し、これからも必ず来る災害への意識を高めていくことの大切さを実感しました。

館内には、地震後の当時の現状をリアルに表した映像や街並み、神戸の復興の歩み、家族を心配しているメモ、震災モニュメントマップなどの展示がありました。

午後、たかとり教会へ。ここは現在、コミュニティセンターとして10団体が活動しています。震災直後から活動されていた日比野さんと神田神父様のお話を伺いました。震災復興から見えてきた新しい町づくりをかたちにしてきた方たちのお話は、組織にとらわれず、現場で20年、本当に町のことを考えてやってきているのが伝わってきました。

多文化共存の神戸の町で、被災された外国人たちとの情報交換のために震災後、災害コミュニティラジオとして立ち上がったFM わいわいも、たかとりコミュニティセンター内にあり、見学しました。南三陸町の災害FMの立ち上げにも協力して下さったそうです。下の写真の言葉に、私たちにできることがあるように感じます。



2日目の夜は、夕食前に有馬の湯泉神社へ行き、宮司さんから震災後の支援活動についてお話していただきました。全国に広がる神社のネットワークを活かし支援してきた話やそれらの活動を通して繋がった教会やお寺の方たちと今でも定期的に会い、お神酒を交わし、お互いに刺激しあっているとおっしゃっていました。

最終日は、岩手・宮城のベースと福島ベースに分かれて、今後の復興支援活動の課題について話し合いました。



課題を黄色とピンクのポストイットで貼っていき、岩手・宮城のベーススタッフにとって共通の課題は、「ベース内の方針・情報の共有・コミュニケーション、休暇の取り方」などが重視されていました。

最初から皆、被災地の方のために来ているので、被災地の活動で出てくる課題は現場で直面していることばかりでした。地元スタッフは、被災している人と外から来ているスタッフのパイプ役としての姿勢を確認していました。

福島ベーススタッフの課題は、先の見えない支援を続けていく中、ニーズは山のようにあり、資金も人材も必要で、どこまでやるのか？どこまでやれるのか？という事が課題に上がっていました。

神戸は救援から始まった活動が20年続いています。それは神戸が好きな人同士で繋がり、町づくりをしているからだと思いました。

これからの東北も本当に町が好きな人たちが繋がり、組織や存続にとらわれず、みんなの想いをカタチにしていけるようにそれぞれの場所で町づくりをしていく事が大切だと改めて確認できました。

そしてこのツアーを企画して下さった ENGO の皆さんとの繋がりもこれからも続いていくと感じました。

ENGO の皆さん、本当にありがとうございました。



《活動記録DVDのご案内》

仙台教区サポートセンターでは、これまで支援して下さった皆様への報告のため、活動を記録したDVD「Always be with you 希望への道を共に〜カトリック教会 復興支援活動のあゆみ〜」を作成いたしました。2011年以降続いてきた活動の内容と今後の課題についてまとめたものです。たくさんの方に今回のDVDをご覧いただき、今後の支援につなげていただければ幸いです。

内容はおよそ25分。英語の字幕が入っておりますので、外国の方に向けての報告の際にもお役立ていただけます。

ご希望があればおわけいたしますので、仙台教区サポートセンターまでお申し込みください。

詳細は、

<http://caritasjapan.jugem.jp/?eid=291> をご覧下さい。

※送料はサポートセンターで負担いたしますが、カリタスジャパンあての振込用紙を同封いたしますので、送料を含めてご寄付をいただければ幸いです。いただいた寄付金は、カリタスジャパンを通して、被災地の支援活動のために使われます。どうぞよろしくお願いいたします。

《第64号2ページ目の記事について お詫びと訂正》

「札幌カリタス宮古ベース 移動カフェ活動の現状と様子」の記事におきまして、記述に誤りがありましたので、訂正させていただきます。宮古市の引っ越し費用補助は、最大6万円とお伝えしましたが、「最大5万円」の間違いでした。大変申し訳ございませんでした。

お読み下さっている皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。